

第4回新潟 BHELP 標準コースと第1回青森 BHELP インストラクターコースに参加しました (2019/7/26, 2019/8/3)

テーマ：地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニングコース

場所：新潟大学新潟医療人育成センター（新潟県新潟市）、弘前医療福祉大学（青森県弘前市）

2019年7月26日(金)、新潟県新潟市の新潟大学新潟医療人育成センターにおいて第4回新潟 BHELP 標準コースが実施され、佐々木宏之助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が受講しました。

日本災害医学会 BHELP (Basic Health Emergency Life Support for Public) 標準コースは、災害発生直後の緊急避難場所・指定避難所の設営、運営を被災者の生命、健康維持の観点から効果的・効率的に実施するために、災害対応における共通の知識と言語を学び、実災害時に実践できる人材を育成するためのコースです。避難所での支援者となる医療職のほか、薬剤師、リハビリ・福祉関連職種、行政職員、学校教員などさまざまな職種が受講対象となっています。

大津波警報が出され高台の緊急避難場所に避難した際、見知らぬ顔の多数の避難者をどのように管理すればよいでしょうか。また、避難場所から移動し避難所運営を開始する際には、どのような管理体制、安全確保、情報共有を行えばよいでしょうか。さらに、多くの避難者のなかの要配慮者をどのように発見し、どのようにサポートし、どのように外部機関につなげればよいでしょうか。このようなヘルスケアトリアージ、Helping Hand、Handover というスキルについて机上演習をとおして学習します。グループワークでは佐々木助教は、同班の看護師、保健師、薬剤師、理学療法士らと協力して作戦を検討しました。

また、佐々木助教は8月3日(土)に青森県弘前市で開催された第1回青森 BHELP インストラクターコースにも参加し、BHELP 教授法についての研修を受けプレインストラクターとなりました。12月14日(土)、12月15日(日)に東北大学災害科学国際研究所において第1回・第2回宮城 BHELP 標準コースが開催される際には、佐々木助教がコースコーディネーターを務めます。避難所での被災者の生命・健康維持管理は、被災地の回復を考える上でも大変重要な課題となります。当研究所では今後も、災害時の保健医療福祉に実践的に携わる人材育成に、積極的に努めて参ります。

時間	分	内容
09:30~09:40	10	オリエンテーション、スタッフ紹介
09:40~10:00	20	講義 BHELP標準コースの概要
10:00~10:35	35	演習1 自らの生命を守るための行動と備え
10:35~11:20	45	講義1 災害対応に関する共通言語 CSCATTT 演習2 発災直後の指定緊急避難場所での応急的な対応
11:20~11:30	10	休憩
11:30~12:25	55	講義2 要配慮者対応の共通言語 CSCAHHH 演習3 要配慮者の生命と健康を守るために
12:25~13:15	50	昼休憩
13:15~13:50	35	演習4 緊急指定避難場所から生活の場としての指定避難所への移行
13:50~14:20	30	講義3 避難所の生活環境のアセスメント 演習5-①
14:20~14:35	15	演習5-② 避難所で生じやすい健康問題と予防対策
14:35~15:15	40	演習5-③
15:15~15:25	10	休憩
15:25~16:30	65	演習5-④ 生活環境改善のためのレイアウト
16:30~16:35	5	筆記試験
16:35~16:50	15	講義4 福祉避難所開設、福祉避難所の管理運営
16:50~17:00	10	質疑応答・修了式

コースプログラム

BHELP標準コースの目標

1. 災害対応に関する共通言語と共通原則がわかる
2. 自らの生命を守るための行動が想定できる
3. 被災した住民の生命を守るための行動がわかる
 - 1 傷病者の救護:CSCATTT
 - 2 要配慮者の救護:CSCAHHH
 - Health care Triage ヘルスケアトリアージ
 - Helping Hand 手を差し伸べる
 - Handover つなぐ
4. 住民の健康維持に配慮した避難所の設営と運営の留意点がわかる。
5. 要配慮者への体制整備(福祉避難所)の必要性がわかる

BHELP 標準コースの目標

HHH Healthcare Triage ヘルスケアトリアージ

「避難所の環境下では、生活が困難あるいは医療提供が不十分なため、病状悪化や新たな健康問題を生じる可能性があることから、保健福祉的なアセスメントを実施し、**避難所での生活継続が可能かを判断する必要がある。**」
(引用：大津波災害における避難所の活動マニュアル、【事案】3避難所による保健福祉的視点でのトリアージ、P58)

避難所でのヘルスケアトリアージの概念

文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）